

区自治協議会提案事業 事業評価書(案)

北区自治協議会

区 分	内 容
テーマ・事業名	羽越水害50年記念事業 【事業費予算 700千円】
事業目的・概要	<p>平成29年度は、羽越水害から半世紀を経て節目の年にあたる。一昨年の関東・東北豪雨、昨年の台風10号による河川氾濫、九州北部豪雨による土砂や洪水による災害など、毎年のように各地で水害が発生している。</p> <p>近年の豪雨の局地化、激甚化を鑑み、あらためて防災対策の必要性を周知するため、次世代へ「羽越水害・下越水害」の教訓を伝承するシンポジウムを開催し、防災訓練などの防災事業を実施する。</p>
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	<ul style="list-style-type: none"> ○北区治水シンポジウムの開催(記録誌の作成) ・日時:平成29年6月18日(日) 会場:北区文化会館 参加者:350名 ○北区・葛塚中央防災会合同防災訓練の実施 ・日時:平成29年6月18日(日) 会場:自治会指定の一時避難所 参加者:1,230名 ○避難所運営ワークショップの開催 ・日時:平成29年6月18日(日) 会場:葛塚コミュニティセンター 参加者:56名 ○巡回パネル展の開催 ・日時:平成29年5月27日(土)～7月10日(月) 会場:北区郷土博物館、濁川連絡所 参加者:550名 ○水害を伝える防災教育 ・木崎小、笹山小、葛塚小、豊栄南小、葛塚中、光晴中 ○下越水害・羽越水害のDVD作成
事業の評価 (地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など)	<p>○北区の歴史は、低湿地帯であったことから人々は常に水との闘いを余儀なくされ、川の流路を変えるなど水害のない暮らしを求めてきた。半世紀前の昭和41年に下越水害、42年に羽越水害が発生し、市域の大部分が浸水するという大災害に2年続けて見舞われた。</p> <p>○この大災害を記録と記憶から伝承し、経験していない世代と共有することで安心できる未来へつなげられるよう事業を計画し実施した。</p> <p>○事業を実施するにあたり、当時を知る人や当時の記録など、人的、物的な資源を探すため被災した地域に協力を求め、災害を経験した人や、写真や映像の提供を受けることができた。</p> <p>○シンポジウムや防災訓練の実施、パネル展やワークショップの開催により、水害を経験した体験談や、写真や映像などの記録から水害の脅威をあらためて認識し、また、それを乗り越えてきた経験を知ることができた。</p> <p>○小・中学校の防災教育では、水害の記録を伝えることで、自分たちの住んでいる地域を知り、治水技術の向上により、現在、安心して暮らすことができていることを伝えた。</p>
備考	

区自治協議会提案事業 事業評価書(案)

北区自治協議会

区 分	内 容
テーマ・事業名	松浜海岸の環境整備と地域活性化事業 【事業費予算 3,000千円】
事業目的・概要	松浜海岸に隣接する民家等への飛砂被害について、地域住民と協働で、飛砂防止に取り組み、生活環境の改善を図る。 住民と海岸との共生を目指し、暮らしやすさで選ばれるまちを目指す。そのため的手段として、地域住民と協働で、海岸との共生に関する意識啓発を目的としたイベントを開催し、地元住民や小学生等とアキグミを植栽して飛砂を防止する。
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	○植栽(緑化)イベントの開催 ・日時:平成29年10月13日(金)午前10:00～ 会場:松浜海岸(ひょうたん池付近) ・参加者:合計約200人 (松浜小学校児童約80人、地元住民約100人、国交省・市関係者約20人) ・内容:アキグミの植栽 約1,300株 → 海岸の緑化及び飛砂防止を図る ・取材報道機関:新潟テレビ21、テレビ新潟、新潟日報 ・植栽樹木の保護としてネットを設置 延長45m
事業の評価 <small>(地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など)</small>	○アキグミを植栽することにより砂丘地が緑化され、近隣住宅地への飛砂被害の軽減に向けた土台づくりに着手できた。 ○植栽活動は市民文化遺産「ひょうたん池」(松浜の池)の飛砂による埋没を防ぎ、地域の環境保全推進の一助となった。 ○イベントでは松浜小学校の児童の参加があり、多くの地域住民が協働で植栽活動を行うことにより、地域への愛着や環境保護への意識啓発が図られた。 ○イベントでマスコミの取材を受けることにより、地域住民だけでなく、世間に広く活動内容や意義を知ってもらうこととなり、飛砂被害や海岸の環境保護など地域の課題への取り組みをアピールできた。 ○来年度以降も継続して地域住民と協働で植栽活動を行い、飛砂防止対策や地域住民の自然環境に対する意識啓発を図っていく必要がある。
備考	

区自治協議会提案事業 事業評価書(案)

北区自治協議会

区分	内容
テーマ・事業名	<p>「命」の教育 【事業費予算 500千円】</p>
事業目的・概要	<p>子どもの健やかな成長のためには、保護者が家庭での教育やしつけについて学んでいくことが必要であり、県のニーズ調査によると多くの保護者がその情報を求めている。 しかし、一方で子育て世代は多忙で、講演会や勉強会への出席が難しい。 小学生の各家庭へ「命」の大切さをテーマとした便りを配付し、子どもたちの育つ環境が、子どもたちの心を安定させ、自分を大切にするばかりでなく他人を思いやることができるようなものとなるよう啓発を促す。</p>
事業の実施実績 (実施回数, 参加者数など)	<p>○「福祉教育部会だより」の発行(A4両面カラー1枚) 内容:教育分野、福祉分野各1面 発行期間:平成29年10月から平成30年3月まで 発行頻度:毎月(全6回) 発行方法:区内各小学校より全学年に配付(約3,800枚) その他:北区公式ホームページおよびフェイスブックに掲載、区内子ども食堂に配置 北区役所だより2月4日号において、配布を周知し、ホームページのQRコードを掲載 平成30年2月末に、各小学校のPTA正副会長(47人へ送付 回収率42.6%)と松浜小、早通南小、豊栄南小においてアンケートを実施(総回答数62人)</p>
事業の評価 <small>(地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価 など)</small>	<p>○教育分野では、家庭教育支援ガイドブック(新潟県教育委員会・新潟県地域家庭教育推進協議会発行)より、時勢に合った項目を選び、コメントを加えた。 ○福祉分野では、小学生の保護者という若い世代に伝える機会の少ない、認知症についてやその対策、地域で広がる支え合いのしくみづくりなどについて取り上げた。 ○昨年、一昨年の自治協議会提案事業では講演会を開催したため、会場に足を運んだ約300人の参加者だけが対象となっていた。「福祉教育部会だより」という形にしたことで、区内の小学生約3,800人の保護者全てへ半年間にわたり、毎月届けることができた。 ○アンケートの結果においても、家庭教育を広めるには、配付物が効果的との回答が58.1%となり、講演会が効果的とする回答(33.9%)より多かった。 ○アンケートでは「お便りを読み、目にすることで改めて気づくことができた」「子育てに悩んでいたのがためになった」という感想がある一方で「ゴミになるので配付物はやめて欲しい」という意見もあった。 ○興味のない保護者への働きかけは非常に難しいが、諦めず、さまざまな形で働きかけ、届けていくことが、子どもたちが安心できる環境を築くためには必要であり、毎月家庭に届けられた「福祉教育部会だより」は、ある一定の効果は達成したものと思われる。</p>
備考	

区自治協議会提案事業 事業評価書(案)

北区自治協議会

区 分	内 容
テーマ・事業名	北区の潟の魅力発信事業 【事業費予算 800千円】
事業目的・概要	福島潟のラムサール条約登録に向けて区民の理解を深めるとともに、水辺環境の保全と活用を図る。
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	<p>○講演会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日時:平成29年11月30日(木)16:00~17:00 会場:北区文化会館 ホール ・演題 「越後平野の変遷とkarouじて残された潟 ~ラムサール条約都市・新潟に向けて~」 ・講師 大熊 孝(新潟大学名誉教授・新潟市潟環境研究所所長) ・対象 北区の自治会長(北区自治会長・町内会長に感謝の集いと同時開催) ・参加者 78名(自治会長) <p>○水の駅「ビュー福島潟」の展示内容のリニューアル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国の天然記念物オオヒシクイの剥製(博物館所蔵)を展示(期間限定) ・4階の大型アクリル板展示内容の更新 ・6階の展望スペースの景色解説表示を最新の写真に更新 ・テレビモニター放映用のDVDの作成 <p>○「北区の水辺マップ」作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存の水辺マップをリニューアルし発行する(10,000部) ・地図や写真、治水事業などについて最新の情報に更新 ・福島潟全体図イラストを変更し、自然や治水を紹介
事業の評価 <small>地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など</small>	<p>○北区の水辺環境のシンボルである福島潟のラムサール条約登録に向けた取り組みについて、区民に広く周知し、理解を深めるとともに、水辺環境の保全と活用への機運の醸成について検討した。</p> <p>○北区の自治会長向けに、大熊孝先生を講師として講演会を開催し、条約の基本理念である「湿地の保全とワイズユース」について周知及び理解を深めることができた。</p> <p>○オープン20周年を迎えた水の駅「ビュー福島潟」を現地視察し、施設職員からの展示等に関する説明をもとに現状の把握や課題などを話し合った。その結果、館内の解説板の内容などを更新し、オオヒシクイを身近に感じることができるよう剥製を館内展示したことで、福島潟の魅力を増加させることができた。</p> <p>○「北区の水辺マップ」(6年前作成)のリニューアルは、最新の地図やバードビューによる潟の写真やイラストへ更新、福島潟の治水事業の紹介など、北区の潟の新たな魅力の発見につなげることができた。</p>
備考	